

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年12月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471504054		
法人名	株式会社コムネット		
事業所名	グループホーム家族		
所在地	広島県福山市千田町三丁目26番13号 (電話) 084-961-0688		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471504054-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471504054-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年12月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開設時からの理念を大切に家庭的な雰囲気の中で家族のように気兼ねなく生活が出来るよう、ひとり一人に寄り添った介護で入居者の日々の暮らしを支援しています。また、新型コロナウイルス感染防止のため限られた交流に留まっているが、地域密着型の事業所として19年目を迎え千田町の一員として町内会に属し良好な関係を築いています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>『家族のように気兼ねなく暮らせる』ホームづくりを目指している。医療との連携に力を入れており、常勤看護職員の配置や協力医との連携により、夜間の連絡体制、緊急時の対応や定期的な訪問診療を行う事で、利用者の健康管理に努めている。全職員が看取りの経験もあり、希望があれば看取りをする方針である。国内での災害状況を教訓に避難する際に直ぐに持ち出しが出来るように、独自の救急医療情報シート（利用者個々の基本情報、病歴、服薬などの医療情報）を作成している。地域との関りを深める目的で、年2回の町内清掃への活動、子ども110番の家としての協力、AEDを設置し、近隣住民への周知を図り地域との関わりを深める取り組みをしている。安心して働ける職場づくりの方針により、在職10年以上の職員が多く、職員の経験、知恵の継承が利用者のケアに活かしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(かつお)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に大きく理念を掲げ、いつでも誰でも確認できるようにしている。月に1度はミーティングで理念を唱和・確認して、理念の実践に向けて日々の生活の中で取り組んでいる。	毎月のミーティングで確認し、その際に昨今の状況を踏まえて代表者の想い、ホームが目指す方針を伝えながら日々実践することにより全員で共有している。家族のように気兼ねなく、利用者に対して馴れ馴れしくしない、ある程度の距離を持っての方針としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域行事への参加は縮小しているが、町内清掃や子供110番での協力は続けている。「家族通信」は町内で回覧を継続しており、リングブルやペットボトルのキャップの収集ボランティアで地域との交流は続いている。	町内会加入により、地域情報を得ている。コロナ禍前の秋祭りには事業所に神輿が訪れ利用者と交流があった。年2回の町内清掃への参加、子ども110当番の家として、近隣の子どもの見守りに協力をしている。AEDを設置し、近隣住民への周知、広報誌は町内に回覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度から運営推進会議を再開し、施設の事例の紹介や講習などを通じて、これまで積み上げてきた経験を活かした情報発信を地域に向けて実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度から運営推進会議を再開し、家族や民生委員、老人クラブや包括支援センターの出席を頂いている。施設での状況を報告した中で、外部からの視点で評価を頂き施設運営に活かしている。	当会議は書面にて行っていたが、今年度、令和5年以降は対面会議を再開している。家族、民生委員、地域包括支援センター職員、老人会の参加がある。内容は、活動報告、利用者状況、ヒヤリハット、事故報告などしている。参加者から地域情報、意見を得られ、サービス向上に活かしている。	家族に議事録が公表されておらず、家族への情報が共有されていない。今後は議事録を送付する案など、会議録公表に取り組み、家族の意見が運営に一定反映されるようにフィードバック出来る体制づくりを期待したい。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センターとは主に運営推進会議の中で相談等ができる機会を得ている。また、生活福祉課の職員が生活保護受給者の状況確認で来所し相談等しているが、介護保険課とは運営推進会議の再開後は出席がなく、意見交換等はできていない。	事故報告書の提出、生活保護担当者が状況確認でホームへ来訪し、相談することもある。地域包括支援センター職員から利用相談など受ける事が多い。地域包括支援センター主催の地域資源会議に出席が出来ていなかったため、次回、令和6年3月の会議参加に向けて準備している。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度は開催すると共に年2回の勉強会も実施している。また、今年度から再開した運営推進会議でも状況を報告し、利用者の行動を制限しないケアの実践に取り組んでいる。</p>	<p>本人が望まないケアは行わない方針のもと、3ヶ月毎の身体的拘束適正化委員会では、例えば、食事が食べにくいから車いすにテーブルを常時置くのは不適切に当たるのではないかなど、職員の気づきから改善するように努めている。上記について、運営推進会議で報告している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に研修課題として取り入れることで、職員の意識を高めるよう努め虐待が見過ごされないようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方はいないが、制度を利用される方がいれば積極的に支援したい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約には十分な時間と具体的な内容を踏まえながら説明することで、利用者や家族等の理解が深められるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族への連絡や面会時等に意見や要望、不安なことはないか声をかけるよう努めている。また、運営推進会議への出席を願ひし外部者との意見交換が出来る機会を設けている。</p>	<p>毎月、写真入りの『家族通信』便りを家族へ送付し、身近な出来事を知らせている。面会は感染状況に応じて玄関ホール内の短時間面会など柔軟に対応し、家族の生の声を聴くように努めている。意見、要望があれば、当日の担当リーダーが集約し、対応するように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度のミーティングに代表者と管理者は必ず出席をしており、意見を伝えやすい環境作りに努め、提案などを施設運営に反映させている。	毎月のミーティングで利用者支援の振り返りを行い、今後の支援に活かしている。永年勤続表彰、希望休の取得、慰労目的で、お歳暮など福利厚生を含め、職場環境の充実に努めている。2ヶ月毎のカンファレンスでは、運営に関すること、利用者支援のことなど話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員と一緒に働く中で職員個々の状況を把握できるようにしている。また、各職員の要望を踏まえながら働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験や能力、希望に応じて研修を受けられるよう配慮している。また、資格取得に向けても情報提供等の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	機会は少ないが包括支援センター主催の勉強会に出席し、同業者と交流する機会を設けている。また、グループホーム協会に加盟し、サービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の本人面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、本人の思いに寄り添い安心して暮らせる環境・関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の家族面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、家族の思いを汲み取り支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に必ず施設見学と本人面談を行っている。その上でグループホームへの入居が適切であるか検討し入居に至っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「互いに寄り添い、励まし合い、元気に生きるホーム」の理念の下で、個々の役割り作りや入居者同志が日々の生活を協力しながら過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルス感染症の影響で面会の時間や人数などに制限はあるが、本人と家族等の関係が途切れないように、毎月の手紙での状況報告や細やかな連絡に努めている。また、職員の働きかけで長らく面会のなかった入居者と家族が面会することが出来た。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の思い入れのある人や場所を職員が話題にして、関係性が薄くならないよう支援をしている。また、昔馴染みの友人が面会し易いように工夫をしている。	利用開始時に面会の必要性の話をしている。利用後の経過、家族の関係性を考慮し、必要時は家族との話し合いの場を設けている。面会者には、事前に面会時間や方法など周知し、友人や知人の面会もみられ、以前からの関係継続に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性と新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、入居者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り交流出来るように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院を経て一旦は退居となったが、入院中の経過を家族と話す機会があり、再び入居する支援を行った事例がある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族アセスメント等で知り得た事などを介護日誌や申し送りノートを活用して職員で共有をしている。また、2ヶ月に1度のカンファレンスで本人の思いを汲み取れるよう検討し、散歩が出来るよう支援した事例がある。	利用開始時に家族へ依頼し、独自のアセスメントシート(人生を歩まれた生活歴、家族の要望、一日の過ごし方など)を活用している。言葉など些細なことを介護日誌や申し送りノートで共有している。家族から『散歩をさせたい』意向から、散歩ができるように支援した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の会話の中で聞き取った事、居宅サービスや病院、他施設などから現在に至るまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりを介護日誌に記録として残している。また、申し送りノート等を活用して職員全員が入居者の状況を総合的に把握できるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いを聞き取り、職員全員で介護計画をチェックし作成している。3ヶ月に1度のモニタリングで介護計画の見直しを検討。職員が参加する2ヵ月に1度のカンファレンスでもケアのあり方について話し合い介護計画に反映している。	独自のアセスメントシートを活用している。アセスメントの結果は、カンファレンスで適切な介護計画に活かされ、3ヶ月毎のモニタリングで介護計画の見直しをしている。2ヶ月毎のカンファレンスで、日々の関わりから、知り得た情報を職員間で共有し、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護日誌や申し送りノート、2ヶ月に1度のカンファレンスで職員全員で情報共有している。その情報を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状況や様々な家族の状況に合わせて柔軟なサービスが提供できるよう検討、実践している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	これまで地域のお祭りや消防団の避難訓練への参加などで地域資源を活用してきたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から地域との協働は現在のところ困難となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ医について入居者や家族に確認をして決めている。ユニット毎に3週間に1度の往診を受け、必要に応じて職員と一緒に通院をしている。また、常勤看護師が入居者の状態を把握し、体調不良時には医師と連絡をとり対応している。	今までの病歴から利用開始時に本人や家族と相談し、かかりつけ医を決めている。協力医以外、他の専門医の受診は家族の協力のもと支援を行っている。勤務を工夫し、毎日、常勤看護職員を配置し、相談など、適切な医療が受けられる体制で、緊急時の連絡体制も整えている。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤の看護師が配置されているので、日々の中ですぐに相談が出来る環境にある。また、24時間いつでも連絡が取れる体制を整えているため夜間でも迅速な対応が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	顔が見える関係を日ごろから協力医と築いている。情報提供は迅速に行い入院中の心身のダメージが軽減できるよう努めている。また、早期に退院ができるよう協力医と連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化・看取りに支援に関する意向確認書を取り交わしている。入居者の病状等の変化に伴い医師や本人、家族を含めて話し合いをしている。看取り支援時には訪問診療医と看護師が連携し夜間でも連絡が出来る体制を整えている。	全職員が看取りの経験もあり、希望があれば、看取りをする方針である。利用開始時に『重度化・看取りに関する意向確認書』を説明し、同意を得ている。重度化や終末期には、主治医と相談し、その都度家族と話し合いで方針を決めている。年1回の研修、看取り後は振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルや緊急連絡先の掲示をしており、定期的にミーティングで確認も行っている。また、AEDを常備しており年に1回は研修を実施している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害と火災に関する避難訓練を定期的実施して、消火器やAEDの使用方法も確認している。その際には地域の消防団の協力を得ていたが新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止されている。3日分の非常食を備蓄している。	避難する際に直ぐに持ち出しが出来るように、独自の救急医療情報シートを作成している。開所して今までに被害は無いが水害を含めた高台への避難訓練をしている。避難訓練時には、地域の消防団が参加している。備蓄に関しては、3日分準備している。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念の『「家族」のように気兼ねなく暮らせるホーム』を実践する中で、入居者の尊厳に配慮しながら認知症状等に応じた分かり易い言葉使いをするように心掛けている。	本人が答えやすいようにクローズドクエストなどを活用し、自己決定が出来るように配慮している。個人ファイルなど記録物に関しても他者の目に触れないように書庫に整理している。生活上、居室ドアを開けっ放しの方には、居室入り口に暖簾を掛けるなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	クローズドクエストを活用するなどしながら入居者の理解力に応じて自己決定が出来るように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴などある程度は決まった時間を設けてはいるが、入居者の思いや生活リズムを尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好きな服を選び自分で着替えをしている。また、入居者の状況に応じて季節に合った服で身だしなみ出来るように職員が支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食・夕食は主に配食業者による食事を提供し朝食のみ手作りで提供し、おやつはなるべく入居者の要望に応じて提供するようにしている。新型コロナウイルス感染防止のため、食事の準備や片付けは職員が行っている。	昼食と夕食は配食業者から、おかずのみ食材が届くシステムがある。朝食は手作りで、希望があればパン食を選択することが出来る。毎月の行事の際は普段食べられないような和菓子など工夫しながら支援している。朝食時間は個々の利用者に応じて柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下状態など入居者の状態を総合的に捉えて、食事形態を検討し提供している。月に1度は体重測定を行い体重の増減や食事量、水分摂取量についても個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には認知症状に応じた口腔ケアを行い、歯ブラシ以外に舌ブラシを活用し一人ひとりに合った口腔ケアをしている。口腔内に異常などあればかかりつけ歯科医と連携が取れるように支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを掴みながら、またサインを見逃さないよう努めている。日中はトイレでの排泄を促し、夜間は入居者それぞれの病状等に応じてポータブルトイレを活用できるように支援をしている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、定期的な声掛け、誘導にて排泄支援をしている。安全確認のため、トイレ入り口のドアに鈴を付けている。紙おむつ使用について、ミーティングで話し合い個別のケース検討をしている。その効果から紙おむつから布パンツへ移行した事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便を促せるよう乳製品や野菜中心の食事提供を心掛けている。また、水分摂取量に気を配りながら腹部のマッサージも行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>夜間の安眠に繋がるよう夕方に入浴時間を設けている。湯加減は個々の入居者の好みに合わせて変え、本人の意思を尊重して支援をしている。</p>	<p>利用者個々の身体状況、生活習慣、湯加減に配慮し、週2~3回の午前又は午後入浴をしている。脱衣場は暖房機を設置し、ヒートショック予防に努めている。柚子湯、入浴剤など活用し、季節浴を支援している。入浴後は化粧水、保湿剤を使用し、皮膚トラブルの軽減に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が得られるように入浴を夕方に行っている。また、個々の生活習慣や状態に合わせて休息できる時間を設けており、自由な時間が持てるよう自室での空間を工夫している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報は個別ファイルで看護師が管理しており、いつでも職員が確認出来るようにしている。薬剤の変更については往診ノートや薬表で管理し職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に1度は季節を感じられる行事を催し、日々の中では個々の能力に合わせた役割りや楽しみとして季節の花を飾り、好きな音楽が聴けるようにも支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、受診などの必要以外の外出はあまり出来ないが、気候のいい時期には職員と一緒に散歩へ出かける機会があった。	コロナ禍前は毎月、外出日を設けて、ばら公園、紅葉狩りなど外食を兼ねた外出をしていた。外出自粛のため、庭に季節の花を植えたり、季節に沿った行事、土用の丑の日には、うなぎ釣りゲーム後に、うなぎを食べたり、焼き芋を紙で作成したりなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭を所持している入居者はいるが、買い物をする機会はない。必要な物や欲しい物は入居者の希望に応じて職員や家族が購入をしている。		

自己評価	外部評価	項目( かつお )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>入居者自身が携帯電話を使用して家族と話ができる環境にある。また、入居者自身が書いた手紙を家族に届けるよう支援した事例もある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の作品や季節の花、写真を飾っており、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、自然光を取り入れられるよう施設の作りは工夫されてもいる。</p>	<p>クリスマスの時期には玄関ホールに商品を飾っている。平屋建てで天窓を活用し、なるべく自然光が取り入れられるようにしている。リビングのテーブルは利用者の状況に応じた大きさのテーブルを準備している。利用者と職員が共同で作成した季節の飾りつけをしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>席の配置を工夫することで、入居者同士が心地良く過ごせるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や小物、巾着などの使い慣れた物を持ち込んで貰えるよう家族をお願いをしている。居室に家族の写真を飾り、テレビを置いて好きな番組を見て思い思いに過ごされている。</p>	<p>利用開始前には必ず見学をお願いしている。危険になる物以外は自由に生活必需品を持参できる。本人の身体状況に応じて、伝歩きがしやすいようにレイアウトを設置している。本人が居心地よく生活しやすいように、本人や家族と相談しながら工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>特に居室とトイレには大きく分かり易い表札を掲示している。また、廊下や洗面所、トイレなど様々な場所に手すりを設置し、全フロアはバリアフリーとなっている。</p>		

V アウトカム項目( かつお ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に大きく理念を掲げ、いつでも誰でも確認できるようにしている。月に1度はミーティングで理念を唱和・確認して、理念の実践に向けて日々の生活の中で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止のため、地域行事への参加は縮小しているが、町内清掃や子供110番での協力は続けている。「家族通信」は町内で回覧を継続しており、リングブルやペットボトルのキャップの収集ボランティアで地域との交流は続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度から運営推進会議を再開し、施設の事例の紹介や講習などを通じて、これまで積み上げてきた経験を活かした情報発信を地域に向けて実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度から運営推進会議を再開し、家族や民生委員、老人クラブや包括支援センターの出席を頂いている。施設での状況を報告した中で、外部からの視点で評価を頂き施設運営に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センターとは主に運営推進会議の中で相談等ができる機会を得ている。また、生活福祉課の職員が生活保護受給者の状況確認で来所し相談等しているが、介護保険課とは運営推進会議の再開後は出席がなく、意見交換等はできていない。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度は開催すると共に年2回の勉強会も実施している。また、今年度から再開した運営推進会議でも状況を報告し、利用者の行動を制限しないケアの実践に取り組んでいる。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修課題として取り入れることで、職員の意識を高めるよう努め虐待が見過ごされないようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、成年後見制度を含め民間の保証人事業をケースに合わせて紹介している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約には十分な時間と具体的な内容を踏まえながら説明することで、利用者や家族等の理解が深められるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族への連絡や面会時等に意見や要望、不安なことはないか声をかけるよう努めている。また、運営推進会議への出席をお願いし外部者との意見交換が出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に1度のミーティングに代表者と管理者は必ず出席をしており、意見を伝えやすい環境作りに努め、提案などを施設運営に反映させている。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	職員と一緒に働く中で職員個々の状況を把握できるようにしている。また、各職員の要望を踏まえながら働きやすい職場作りに努めている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	職員の経験や能力、希望に応じて研修を受けられるよう配慮している。また、資格取得に向けても情報提供等の支援を行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	機会は少ないが包括支援センター主催の勉強会に出席し、同業者と交流する機会を設けている。また、グループホーム協会に加盟し、サービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入居前の本人面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、本人の思いに寄り添い安心して暮らせる環境・関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目( わかめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の家族面談での聞き取りや家族が作る家族アセスメントを利用して、家族の思いを汲み取り支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に必ず施設見学と本人面談を行っている。その上でグループホームへの入居が適切であるか検討し入居に至っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「互いに寄り添い、励まし合い、元気に生きるホーム」の理念の下で、個々の役割り作りや入居者同志が日々の生活を協力しながら過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルス感染症の影響で面会の時間や人数などに制限はあるが、本人と家族等の関係が途切れないように、毎月の手紙での状況報告や細やかな連絡に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の思い入れのある人や場所を職員が話題にして、関係性が薄くならなように支援をしている。また、昔馴染みの友人が面会し易いように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性と新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、入居者同士が関わりを持てるよう職員が間に入り交流出来るように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個人情報保護の観点からグループホームを退居された入居者やその家族に連絡を入れたり、情報収集をすることはないが相談があれば積極的に支援したい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族アセスメント等で知り得た事などを介護日誌や申し送りノートを活用して職員で共有をしている。また、2ヶ月に1度のカンファレンスで本人の思いを汲み取れるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族アセスメントの活用や日々の会話の中で聞き取った事、居宅サービスや病院、他施設などから現在に至るまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりを介護日誌に記録として残している。また、申し送りノート等を活用して職員全員が入居者の状況を総合的に把握できるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いを聞き取り、職員全員で介護計画をチェックし作成している。3ヶ月に1度のモニタリングで介護計画の見直しを検討。職員が参加する2ヵ月に1度のカンファレンスでもケアのあり方について話し合い介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護日誌や申し送りノート、2ヶ月に1度のカンファレンスで職員全員で情報共有している。その情報を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状況や様々な家族の状況に合わせて柔軟なサービスが提供できるよう検討、実践している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	これまで地域のお祭りや消防団の避難訓練への参加などで地域資源を活用してきたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から地域との協働は現在のところ困難となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ医について入居者や家族に確認をして決めている。ユニット毎に3週間に1度の往診を受け、必要に応じて職員が一緒に通院をしている。また、常勤看護師が入居者の状態を把握し、体調不良時には医師と連絡をとり対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤の看護師が配置されているので、日々の中ですぐに相談が出来る環境にある。また、24時間いつでも連絡が取れる体制を整えているため夜間でも迅速な対応が可能となっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	顔が見える関係を日ごろから協力医と築いている。情報提供は迅速に行い入院中の心身のダメージが軽減できるよう努めている。また、早期に退院ができるよう協力医と連携している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化・看取りに支援に関する意向確認書を取り交わしている。入居者の病状等の変化に伴い医師や本人、家族を含めて話し合いをしている。看取り支援時には訪問診療医と看護師が連携し夜間でも連絡が出来る体制を整えている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルや緊急連絡先の掲示をしており、定期的にミーティングで確認も行っている。また、AEDを常備しており年に1回は研修を実施している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害と火災に関する避難訓練を定期的実施して、消火器やAEDの使用方法も確認している。その際には地域の消防団の協力を得ていたが新型コロナウイルス感染防止の観点から中止されている。3日分の非常食を備蓄している。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念の『「家族」のように気兼ねなく暮せるホーム』を実践する中で、入居者の尊厳に配慮しながら認知症状等に応じた分かり易い言葉使いをするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	クローズドクエスションを活用するなどしながら入居者の理解力に応じて自己決定が出来るように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴などある程度は決まった時間を設けてはいるが、入居者の思いや生活リズムを尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の好きな服を選び自分で着替えをしている。また、入居者の状況に応じて季節に合った服で身だしなみが出来るように職員が支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食・夕食は主に配食業者による食事を提供し朝食のみ手作りで提供し、おやつはなるべく入居者の要望に応じて提供するようにしている。新型コロナウイルス感染防止のため、食事の準備や片付けは職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下状態など入居者の状態を総合的に捉えて、食事形態を検討し提供している。月に1度は体重測定を行い体重の増減や食事量、水分摂取量についても個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には認知症状に応じた口腔ケアを行い、義歯洗浄も毎日している。口腔内に異常などあればかかりつけ歯科医と連携が取れるように支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを掴みながら、またサインを見逃さないよう努めている。日中はトイレでの排泄を促し、夜間は入居者それぞれの病状等に応じてポータブルトイレを活用できるように支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便を促せるよう乳製品や野菜中心の食事提供を心掛けている。また、水分摂取量に気を配りながら腹部のマッサージも行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>夜間の安眠に繋がるよう夕方に入浴時間を設けている。湯加減は個々の入居者の好みに合わせて変え、本人の意思を尊重して支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(わかめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠が得られるように入浴を夕方に行っている。また、個々の生活習慣や状態に合わせて休息できる時間を設けており、自由な時間が持てるよう自室での空間を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報は個別ファイルで看護師が管理しており、いつでも職員が確認を出来るようにしている。薬剤の変更については往診ノートや薬表で管理し職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に1度は季節を感じられる行事を催し、日々の中では個々の能力に合わせた役割りや折紙などの手作業が出来るよう支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため、受診などの必要以外の外出は出来ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭を所持している入居者はいるが、買い物をする機会はない。必要な物や欲しい物は入居者の希望に応じて職員や家族が購入をしている。		

自己評価	外部評価	項 目( わかめ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>手紙をやり取りする機会はないが、入居者自身が携帯電話を使用して家族と話ができる環境にある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の作品や季節感のある掲示物、写真を飾っており、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、自然光を取り入れられるよう施設の作りは工夫されている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>席の配置を工夫することで、リビングで談笑する機会や静かにテレビを見る機会もあり、入居者同士が心地良く過ごせるように配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や小物、巾着などの使い慣れた物を持ち込んで貰えるよう家族にお願いをしている。居室に家族の写真を飾り、テレビを置いて好きな番組を見て思い思いに過ごされている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>特に居室とトイレには大きく分かり易い表札を掲示している。また、廊下や洗面所、トイレなど様々な場所に手すりを設置し、全フロアはバリアフリーとなっている。</p>		

V アウトカム項目( わかめ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム家族

作成日 令和6年1月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の議事録が公表されておらず家族に情報が共有できていない。	運営推進会議の議事録を公表することでその内容を家族に周知する。	個人情報に配慮した上で会議翌月の請求書に議事録を同封し家族に配布する。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。